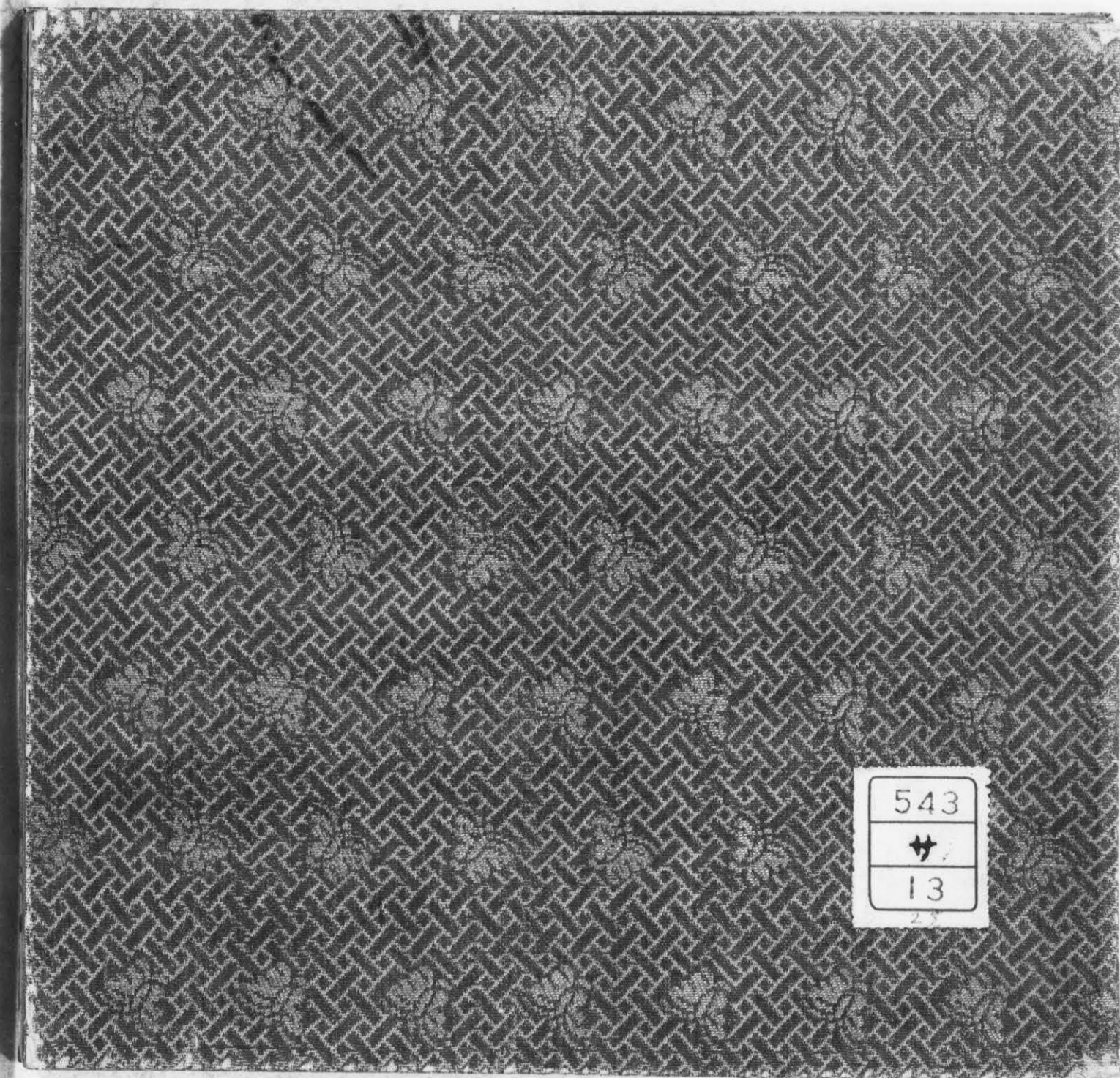
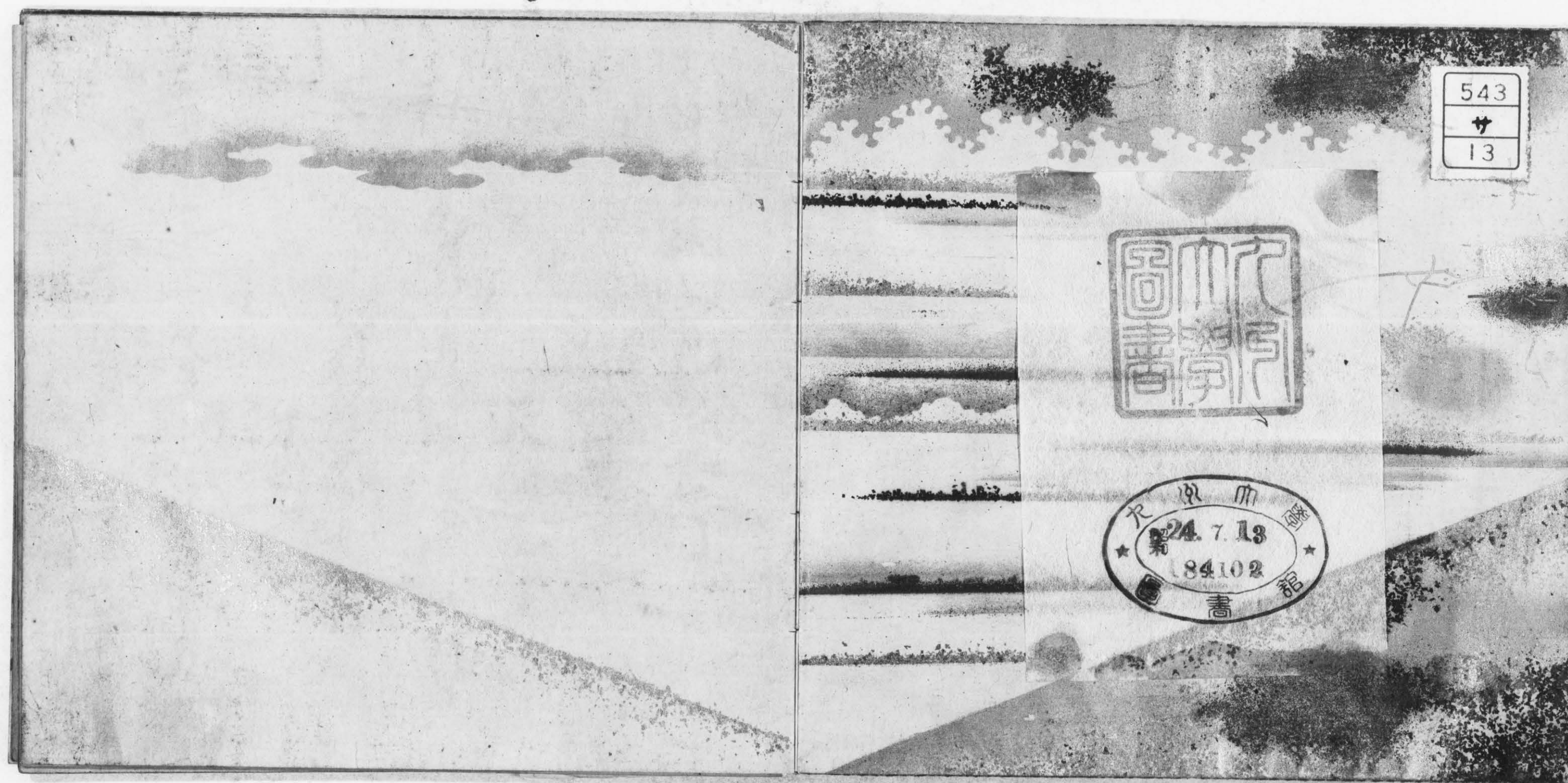


0 150 cm 10 20

SEKISUI JUSHI



543
4
13



543

サ

13



小倉山庄色紙和歌

天智天皇

秋をゆけりいふ庵はとちの
も衣の露をぬれけ

持統天皇

春こころ夏まじりて
夜いそぎもあふく山



柿本入磨

あまのふりたるのうしろあ
たしー夜も楊もなや

山邊赤人

田子さへおとるれはあ
富士のしるしをふけ

猿丸大吏

おくらにまふさくはうら

なまけふあめさか

中納家持

鶴さへあはれしうさへ頼の
ちろいふれあつてけさ

安信仲丸

とあさふけしあつたれ
こころのうらな月さ

喜撰法師

我庵をわづらひてちとせ
ゆきと人いふま

小野小町

花のさきけりうきうき
ももたふちやうた

蟬丸

ふたふたふたふた
あつたのう

赤議堂

和田を原に千鳥くさ
くさくさあふの物

信玄通昭

ふたふたのふたふた
ふたふたふたふた

陽成院

けいけいふたふたふた

ふたははらへて測りけり

河原太人臣

えちのれきりしちいりて
ふきり初めあたるふ

光孝天皇

きりて春のこきりあ葉摘
もつ衣はこきりあひ

中納言の平

ふ別いもはらのきりあ
ねやういしうふ

右原業平朝臣

千早松林代もつちいりて
いり水くられり

藤原敏朝朝臣

位のりきりしちいりて
いり通る人いり

伊勢

遠くはるかにあはれなる
あはれなるこころを

元良親王

わが心はこころにこころ
身はこころにこころなる

素性法師

こころはこころなるあはれ

あはれなるこころなる

文彦康秀

わが心はこころなるあはれ
わが心はこころなる

大江千里

あはれなるこころなる
あはれなるこころなる

菅家

この及にふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

と糸を大に

ふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

自信云

ふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

中納言補

ふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

源三子太

ふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

凡すは

ふもいふかたは
いふれ 珍神のまに

たしなむにふはるのぞ

春遊

あけそはけくえんあけ

あけそはけくえんあけ

坂と是則

あけそはけくえんあけ

あけそはけくえんあけ

春遊列樹

あけそはけくえんあけ

あけそはけくえんあけ

比友則

あけそはけくえんあけ

あけそはけくえんあけ

孫原興

あけそはけくえんあけ

あけそはけくえんあけ

北貫く

人さすくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく

清原深喜文

夏の夜さくさくさくさく
さくさくさくさくさく

文屋朝康

さくさくさくさくさく

石匠

さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく
人のさくさくさく

本藏等

あさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさく

平盛盛

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

五世忠見

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

清原元輔

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

権中納言敦忠

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

中納言忠忠

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

忠忠云

あふらふにけりあふらふ
あふらふにけりあふらふ

身はふしつゝ海にまかす

曾祿好也

中良のふしつゝ海にまかす

惠慶法師

ふしつゝ海にまかす

源重之

ふしつゝ海にまかす

今に能宣期に

は垣を清くするのたに

孫原我孝

ふしつゝ海にまかす

藤原方朝臣

かへりてふにふたし草
ちのちのちのちのちのち

藤原通仁朝臣

明めくふふふふふふ
わくくくくくくくく

右近衛道深朝臣

歎くくくくくくくく

いふくくくくくくく

儀同三司朝臣

あふふふふふふふふ

大納言朝臣

龍のふふふふふふふ

和泉式部

あゝ人々をばあひのさか
とて及のきよきもの

禁部

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

大蔵部

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

赤染部

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

赤部内侍

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

白部大補

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

ふれあふちのあふれ

清の納言

長きちの馬のあふれはるる

世のあふれのあふれ

大室の道雅

いよちのあふれはるる

人つちのあふれはるる

権中納言

切のあふれのあふれ

あふれはるる

相模

根のあふれのあふれ

いよちのあふれはるる

大室の道雅

いよちのあふれはるる

いよちのあふれはるる

用字内侍

春のよき夢ちのれさる花
いさへききしるふれ

三條院

いさへききしるふれ

いさへききしるふれ

能因法師

風はこききしるふれ

花のよき夢ちのれさる

良暹法師

いさへききしるふれ

いさへききしるふれ

大納言信

いさへききしるふれ

いさへききしるふれ

祐南親王

ちしす高師の瀧たけし波た
くわ神のたけし波た

権中納言匡房

ふみのたけし波た
外らのたけし波た

源後頼朝

うまげのたけし波た
しけのたけし波た

藤原基俊

あまのたけし波た
あまのたけし波た

持守金満殿

和田のたけし波た
和田のたけし波た

崇徳院

瀬のたけし波た
瀬のたけし波た

わたりしきこもあはれなるもの

源氏物語

清涼島にぬちりしきこも

くねりしきこもの開き

左京大夫頼朝

秋もさきへきしきこも

しきこものきこも

待賢門院堀河

うきよきこもさきへき

しきこものきこも

後徳寺大僧

きこもさきへきしきこも

きこもさきへきしきこも

海内法師

きこもさきへきしきこも

きこもさきへきしきこも

皇太子後成

紫の通しなるれやま

山のおくも麻さる

藤忍清補

なすく又このひやまの

うしなうたといふも

後惠法師

よひしわやふはあやめ

国をいふははるわけ

西行法師

なすく月やこのひやまの

かちるれはちぬ

井蓮法師

すくものきもこのひやまの

きちのむねのさる

皇太子院

難波のあさきつゝのたけ
身はつゝつゝつゝつゝつゝ

おき内親王

玉の珠ははるるゝあきつゝ
このあきつゝつゝつゝつゝ

殷富門院補

えきつゝつゝつゝつゝつゝ
おきつゝつゝつゝつゝつゝ

後義経公女

坐ちつゝつゝつゝつゝつゝ
このあきつゝつゝつゝつゝ

二條院讃波

あきつゝつゝつゝつゝつゝ
このあきつゝつゝつゝつゝ

漁舍をた

あきつゝつゝつゝつゝつゝ

あふふ丹を網をけり

赤城雅経

けきをのひそけきをもて
あつとひく衣ふけり

市人信正

おけきふけきふけきふけき
我をけきふけきふけき

入道市人信正

けきふけきふけきふけき
あつとひく衣ふけり

権中納言

あつとひく衣ふけり
あつとひく衣ふけり

佐二信家隆

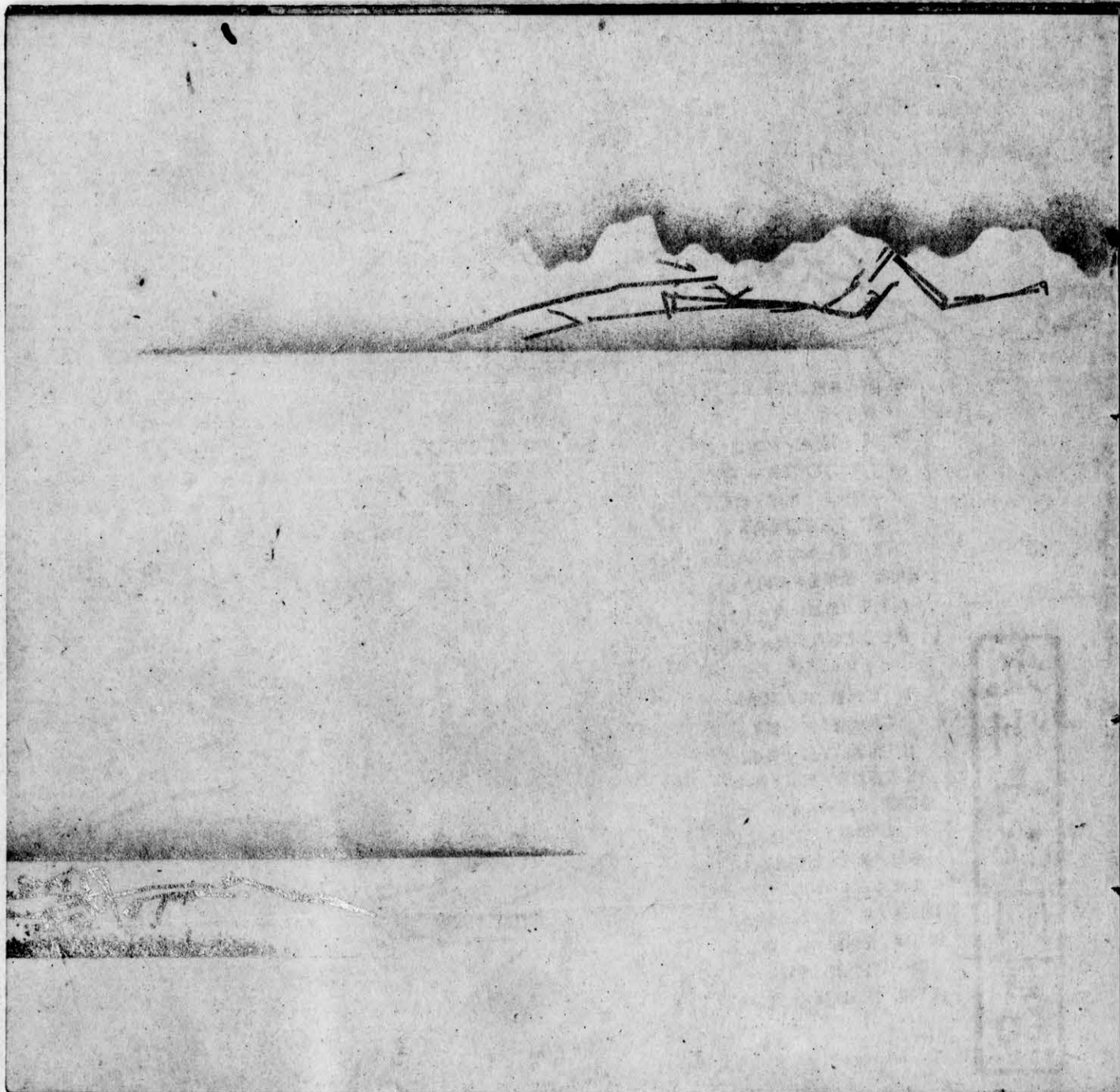
あつとひく衣ふけり
あつとひく衣ふけり

後鳥羽院

人よし人よし人よし
まよひし人よし人よし

順徳院

百敷やまゝ水場を
わあやうき言なま



九州大學圖書印

